
バカと不良と車椅子少女

西野二伸

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バカと不良と車椅子少女

【Zコード】

Z9905Y

【作者名】

西野一伸

【あらすじ】

文月学園の姉妹校である水無月学園。ここには文月学園と同様の召喚システムが導入されている。完全オリジナルストーリーでお送りするバカテスをお楽しみください。

プロローグ

一時間目、数学試験

これが難しいと噂の振り分け試験

確かに難しいが問題無い。この程度ならロクラス以上は取れるだろう。

俺は最初に自分の名前『五月女伸一』を答案用紙に書く。

得意な数学問題を次々と解いていく。

現代国語や古文が苦手な俺は理数系に的を絞つてこの日の為に勉強してきた。

今日は調子良い。

次々と数学の答えがパツと頭に浮かぶ。

俺はチラッと右横の風華に視線を向ける。

風華のペンは走っている。

風華ならいつもの成績でAクラスに悠々と入れるだろう。

試験監督の先生、今回は大和田先生が生徒の横を通り過ぎていった。

すると、風華の横に大和田先生が止まった。

「机の中の物を出しなさい」

「え？」

困惑した様子の風華を余所に大和田先生は無理矢理風華の車椅子を引き、机の中に手を突っ込む。

机の中から出て来た大和田先生の手には、一枚の紙が握り潰されていた。

それを堂々と試験を受ける生徒の前で広げた。

「おやおや？ これは何かの方程式でないか？ これはビツついう事だ、風華？」

風華は目を白黒させる。戸惑いではない、ただ驚いている。

「……知りません」

「何が知りませんだ！ こっちに来なさい」

風華は為す綱^なすべなく大和田先生に連れて行かれる。

「ちょっと待つてくださいよ、大和田先生」

俺は立ち上がり、大和田先生の前の道を阻む。

「なんだね、君は？」

明らかにイラついた様子の大和田先生。

「それって、本当に風華の物ですか？」

大和田先生の手に持つ紙を指でさす。

「なんだね？ 僕を疑っているのか？」

「いえ、疑つてはいな 」

「だつたら黙つて居ろ！－ 貴様もカンニングと見なすぞ－－」

険しい剣幕で俺に命令する大和田先生。

「やめる、伸一。私は大丈夫だ。お前は自分の試験の心配しろ」

「風華、わかつたよ」

俺は風華の言つまま数学のテストを受ける。

大和田先生と風華が居なくなつて数分後、別の試験監督が入つて來た。

「礼をさせられる程の事はしてないよ。ただ俺が暴れたかっただけだし」

「でも、その暴れてくれたおかげで、私の処女は護られたわ。あんな気持ち悪い不良のチ ポに犯されずに」

「お前少しば恥じらいを持てよ。女の子がチ ポとか言っちゃダメ」

「そうね。私は貴方から見れば女の子だもんね」

「誰がどう見ても女の子だる。俺的には美少女って感じだな」

「その言葉、もしかして口説いてるの」

「なんで口や鼻から血を出して頬を腫らしている顔で口説くんだよ。パツと見、俺負け面だよね？」

「勝つたじゃない。奇跡的に十人相手に」

「十人じゃなくて八人だよ。しかも相手は丸腰で、俺は木の棒持つてたし」

「でも最後の三人は素手で倒したでしょ？」

「いやー、木の棒が折れて三人にリンチされるとは恥ずかしいな」「そこから巻き返したので帳消しよ」

「そつか？ ま、そういう事にすつか。あー痛ー」

「大丈夫？ 肩貸す？」

「女の子の肩を血で濡らす訳にはいかないから遠慮する」

「格好付けなくていいから。ほら」

「男は美しい女、詰まる所美女の前では格好付けたい生き物なの。
それぐらい察してくれ」

「男つて最低ね」

「それが男です。「一ヒーのCMでもあつたろ？ 男は女に弱くて、
男はサイテーで、男はサイコ だつて。楽しいよ？」男」

「馬鹿ね。男つて最低の馬鹿。レイプしようとする奴も、五月女君
も。五月女君の馬鹿は違つ意味でだけど」

「男ですみません」

第一話 クラス分け

春爛漫、なんて言葉が出るほど絶景。

我が校、水無月学園へ続く200mの坂道には、数え切れないほど
の桜の木が桜を咲かしている。

まさに狂い咲き。桜の花びらが地面を覆い尽くすほど散っているが、
一向に桜の花が無くなる気配がない。

俺は桜を踏みながら坂道を上る。一年間通っているが、相変わらず
長い坂だ。この坂道に慣れる気がしない。

上っている途中でショートヘアの車椅子少女を発見した。

手馴れてこるとこつか力が有るというか体力が有るのか少女は歩く
スピードと変わらないスピードで進む。

そんな彼女に俺は声をかける。

「よ、風華。おはよう」

「うふ、おはよう伸一。今日も良い天気ね」

崎本風華。俺のクラスメイトであり、友達であり、親友だ。

実は彼女、幼い頃に交通事故で膝から下を失つて以来車椅子生活。

「そうだな、今日も快晴だ。ところで腕疲れたか?」

俺は極自然に風華に尋ねる。坂道を半分ほど上つてもう疲れた頃だ
ら、

「大丈夫。毎日上つているから慣れているし」

風華は笑いながら答える。いや、本当に風華は可愛い。特に笑った
時の顔が最高だ。

「そうか。無理はすんなよ」

そこから先は雑談三昧だ。

坂道を上がるまで風華の隣でゲームの話や漫画の話だ。風華は運動
ができないので、幼い頃からゲームや漫画を読んでいる。

俺と趣味趣向が合つてよく雑談をする。

風華と知り合つて、もう一年になる。

学食で相席になつてから、目が合えば自然と雑談が始まる関係だ。

しかし先月に風華のお見舞いに行つて以来だから三週間振りの再開
だ。

そんなこんなで俺と風華は既に昇降口前まで來ていた。

昇降口前には井深公彦先生が仁王立ちしていた。進路相談、生活指
導担当の鬼という異名を持つ。

別名ラガーマン。一ハ〇を余裕に超える身長。ベンチプレスは一〇〇? も上げるという噂の太い腕。スーツがはち切れんばかりの胸筋。そして恐ろしい顔とソフトモヒカンの髪型。

恐ろしい。逆らひつと男子には張り手、女子には怒声を上げる恐ろしい噂、といふか事実がある。

実際タバコを吸っていた男子生徒を見つけた瞬間に往復ビンタをした。しかも力加減を考えており、鼓膜が破れないよう逆に永遠のビンタを男子生徒は一〇分間喰らつたといふ。

「「おはよう」」ゼこます、井深先生」

「「つむ、おはよつ伸」」と崎本」

更に恐ろしいのは全学年の生徒の顔と名前を暗記しているといふだ。制服を着ていなくとも顔で判断できる。

「お前達の分はこれだ」

井深先生は足元に置いてある箱から一通の茶色い封筒を俺達に渡した。

「実際俺は今でも信じられん。お前、風華がカシニングをしたって事に」

井深先生はヤレヤレと深いため息を吐く。

カシニング事件。三週間前の振り分け試験時、風華の机の中に一枚の数学の公式がビックシリと詰まつた紙が発見された。風華はカシニ

ングを否定したが、物的証拠がでた以上、風華は一週間の謹慎処分と振り分け試験のテスト全て〇点となつた。

つまり、風華は実質Fクラス落ち。

「私はやつてません、て言つてもあの先生方は信じませんでしたし
「そうだな。崎本はもう少し愛想良くなれば先生方の印象が良くな
るのだが」

井深先生は真剣な眼差しで風華を見据える。^{みす}

「しかし、俺は信じているぞ。お前がカணニングをしていなかつた
と」

風華は先生といつものが嫌いで一部の先生以外には冷たくあじらう。

その事が原因なのか風華のカணニングが認められてしまつた。

しかし、井深先生だけが最後まで粘つてカணニングペーパーの文字
と風華の文字と違うだの、別室で試験をさせて点数が前と変わらな
かつたらカணニング疑惑を取り消そうと頑張つたが、結局カணニン
グ犯扱いとなつた。

「ありがとうございます。先生の事は感謝します」

「そりがとうござります。先生の事は感謝します」

俺は井深先生と風華のやり取りを見ながら俺が受け取つた封筒を開く。中には一枚の紙が三つ折りになつて入つていた。

「それでいても、伸一

「なんですか？」

「お前の成績だったらこのクラスは余裕だったろうに」

俺は折り畳まれた紙を開き、自分のクラスを確認する。

「…………何故テストに名前を書き忘れるんだ」

『五月女伸一』……『クラス』

「そりゃあ先生

俺はニッヒとニヤけて見せる。

「仲の良い友達と一緒にクラスになれるのなら、俺は地獄にでも出向きますよ」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9905y/>

バカと不良と車椅子少女

2011年11月30日08時51分発行